

# 86/BRZプロフェッショナルは佐々木雅弘選手が優勝



86/BRZプロシリーズ第4戦は、佐々木雅弘選手がポール・トゥ・ウィンを飾った。



KAYAMAチャレンジカップレース第3戦が、6月23～24日に岡山国際サーキットで開催された。

まず、スーパーカートの決勝では直前に雨がやみ、徐々に水が干けていく中、PPの川島浩選手を2コーナーで抜き、トップに立ったのは予選2番手の加藤シン選手。1周目だけで4秒8の差をつけ、そのまま逃げるかと思われたが、3周目から川島選手がファステストラップの連発で一気に近づいてくる。6周目のヘアピンで川島選

手は逆転に成功、加藤選手を振り切るまでには至らずも、逃げ切りを果たす。「微妙な路面だったから、先に行かせた方がどこが濡れているか分かるでしょう？ 追いつく自信はあったので」と語る川島選手がSK1を制覇。

SK2でも予選トップの日野一弘選手が、オープニングラップのうちに山口登唯選手の先行を許すも、「向こうはレインタイヤで、僕はスリックタイヤ。2周ぐらいでタイムは逆転した感じでしたね」という言葉の通り、3周目のヘアピ

ンでトップに立つと、その後の日野選手は誰の接近も許さなかった。SK4では西本勝選手が、そしてSK3では藤澤正治選手が優勝を飾った。

ポルシェトロフィーでは「このレースは初めてで、今まで遊びのレースをやっていました」と語る山本賢選手がポールポジションを獲得。だ



WAKO'sスーパーカート岡山国際サーキット選手権シリーズ第3戦 / 1.SK1クラス1位の川島浩選手。2.日野一弘選手はSK2クラス1位。3.SK4クラス1位の西本勝選手。4.藤澤正治選手はSK3クラス1位。5.SK1クラス2位の加藤シン選手。6.山本秀樹選手はSK2クラス2位。7.SK3クラス2位の中川健司選手。8.山口登唯選手はSK2クラス3位。9.SK3クラス3位の大宅晴郎選手。





ポルシェトロフィー / 10.2位はポルシェトロフィー初参戦の山本賢選手。11.トップをキープしたMUSASHI選手だったが3位という結果に。12.予選4番手スタートの小山雅也選手が巻き返して1位。



TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race 2018 CLUBMAN Series Round4 A Race / 13.予選2組でポールポジションの神谷裕幸選手が逃げ切り1位。14.庄司雄磨選手は予選1組の2番手で2位に。15.3位は全日本ジムカーナ選手権に参戦中の菱井将文選手。



TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race 2018 CLUBMAN Series Round4 B Race / 16.予選2組31番手の橋本洋平選手が見事1位。17.2位は予選2組23番手の黒岩唯一選手。18.萩本賢一選手は予選2組22番手で3位。



TOYOTA GAZOO Racing 86/BRZ Race 2018 PROFESSIONAL Series Round4 / 19.佐々木雅弘選手が今季初のポールポジションからスタート、見事1位を獲得した。20.一時はトップを奪ったものの2位となった織戸学選手。21.ポイントランキング上位の谷口信輝選手は3位入賞。



が「ローリングスタート用のクルマなので、発進だけが不安です」とも。そんな不安的中し、山本選手は3番手に後退してしまう。一方、2番手から松島豊選手が鋭く飛び出したが、これがなんと違反スタート。松島選手のペナルティでトップに立ったMUSASHI選手を、10周目のヘアピンで小山雅也選手が逆転し、そのまま逃げ切ることとなった。「みんなタイヤが壊しかつたようで、僕がその中でもマシだったってことです。予選もそんなに走らなかつたし」と小山選手。注目の山本選手は2位に終わる。

GR 86/BRZクラブマンシリーズは「本格的なレースは10年ぶり」と語る、かつてのAE86チャンピオン、田嶋聡選手が予選1組でトップに立つも、2組の方が著しくコンディションが向上し、神谷裕幸選手にポールポジションを奪われてしまう。決勝では神谷選手がポール・トゥ・ウィンを飾るも、常に背後はライバルを置く辛勝でもあった。2位は庄司雄磨選手で、田嶋選手は菱井将文選手に続く4位に。

GR 86/BRZプロフェッショナルシリーズも、佐々木雅弘選手がポール・トゥ・ウィン。序盤

に築いた4秒ものリードを、終盤になって織戸学選手に詰められたものの、最後はコンマ3秒差ながらも振り切って、今季初優勝を挙げた。

ロードスター・パーティレースⅢの西日本シリーズでは、本多永一選手が今季初のポールポジションを獲得。続く杉野治彦選手、開幕戦ウィナーの樋口紀行選手、猪爪杏奈選手、八田新一選手まで1秒差とあって、決勝も激戦が期待された。だが、好スタートを切った本多選手が1周目から逃げ始めたのに対し、2番手争いはいきなりヒートアップ。スタートで杉野選手を抜いた樋口選手を、続いて八田選手がヘアピンでかわす。2周目、3周目にも八田選手と樋口選手が順位を入れ替え合う中、すでにトップの本多選手は5秒も先行。そして5周目には、一旦5番手に順位を落としていた猪爪選手が八田選手を抜いて3番手に浮上する。そんな激しいバトルを尻目に、本多選手は元王者の貫禄を見せつけた。「最初の3周はプッシュしましたが、誰か着いてきていたら、最後タイヤが壊しかつたのでやばかったかも」と本多選手。

WEST VITAはポールの近藤善嗣選手がス



86/BRZ プロシリーズで今季初優勝を飾った佐々木雅弘選手。

タートに遅れ、さらに接触で足回りを痛めた影響で2周目にコースアウト。3周に渡るSCラン後も、大山正芳選手と清水康友選手、吉田靖之選手による激しいトップ争いは続いた。

だが、9周目のバイパーコーナーで大山選手と清水選手が前ってスピン！ その脇を抜けていった吉田選手が優勝を飾って、「ここ数年、S耐とか耐久をやってきましたが、スプリントでの優勝はTIと呼ばれていた頃、AE86で初代チャンピオン取った時以来です」と、衰えぬ腕を見せつけた。2位、3位は竹内耕二選手、関正俊選手が獲得。



ロードスターパーティレースⅢ西日本シリーズ第2戦 / 22.昨年のチャンピオン・本多永一選手が1位。23.杉野治彦選手はトップにプレッシャーをかける好走を見せ2位。24.熾烈な2位争いを繰り広げたものの惜しくも3位となった猪爪杏奈選手。



WEST VITA / 25.竹内耕二選手は激しいレース展開の中、初の表彰台となる2位を獲得。26.3位は予選8番手から浮上した関正俊選手。27.「久々の1位で嬉しいです」と振り返った吉田靖之選手。